

No.147
2021
Winter

Hachinohe
Institute
of
Technology
Press
SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication

さくら幼稚園創立50周年記念イベント 「親子であそぼう」



CONTENTS

さくら幼稚園

p2-3 クリスマスはっぴょうかい／かたぐるま／ようちえん
んってこんなところ／とらんぼりん

八戸工業大学

p4-5 新年学長メッセージ／新成人に聞く／OBOG メッセージ／アイススケート部優勝／オンライン学園祭／硬式野球部二部優勝／バレーボール部一部残留／文化会霜月展／公開講座

p6-7 八戸冬季国体シンボルマーク・スローガン採用／新型コロナウイルス医療支援／雪腐病評価系の開発／新年度三部会役員決定／企業と連携授業／田名部組協定締結／学内ワクチン接種状況／非接触型消毒機寄贈／オープンキャンパス予定／駐車場整備／2月～4月予定／2022年度入試

八戸工業大学第一高等学校

p8-9 体育祭／工大一祭／黒田君西武ライオンズドラフト5位／工業科高大連携事業／普通科 G プロジェクト／G キャンプ／坂道名の看板寄贈／令和3年度進路状況中間報告

八戸工業大学第二高等学校

p10-11 美術コース展誌上卒業制作展／令和3年度進路状況中間報告／SDGs：外務省高校講座・子ども食堂・2学年企業見学・白神山地トレッキングツアー・絵本読み聞かせ・はしかみいといこ広め隊・マイクプラスチック分析結果報告会

八戸工業大学第二高等学校附属中学校

p12 修学旅行／サイエンス特別講座／第2回校外学習

p12 さくら幼稚園50周年／理事会・評議員会



Mobile & iPhone & Android
◀◀モバイルサイトへアクセス



クリスマス はっぴょうかい



年長組 言語劇
「かさじぞう」

「おじいさん おばあさん どうぞめしあがれ。」



満3歳組 遊戯
「えがおのまほう」

「はなさけ、ばっか〜ん。
う〜ん、かいか!」



年長組 音楽劇
「北風と太陽」



「げんきいっぱい
おどります!!!」



年中組 遊戯
「ゆめいっぱい」

「たのしいことなら いっぱい〜!」

12月9日(木)、10日(金)に分けて行われたクリスマス会。前日、降園時間ギリギリまで練習をしていた子どもたちは、緊張は見られたものの衣装をつけるとすっかり役になりきっていた。練習の成果を存分に出し切り、幕が閉まるまでポーズをとる子どもたちに惜しめない拍手が送られた。出番を終えた解放感と満足感からか、子どもたちの戻ったクラスからはいつも以上に明るくにぎやかな声が聞かれた。一方発表会が終わり子どもたちの去ったホールでは、教職員制作の50周年の歩みのDVDが上映された。なかなか見ることのない園生活の様子を知ってもらう発表の機会になったようだ。



おもいでをいつまでも

「おはようございます」と、いつも待ってくれている園長先生の声に、引き寄せられる様に入っていく孫2人です。

3月29日生まれの2人は、3歳になってすぐに入園式があり心配しましたが、先生方に見守られてあと少しで卒園です。

初めての運動会で、小さな体に運動着を着て、たどたどしい足で行進したときは本当に感動しました。いろいろ思い出されます。また、さまざまな行事やアイデアいっぱいの制作物等、先生方にはいつも感心させられます。孫達も得

意気に私に説明してくれます。今はコロナ禍で行事が縮小され、園での孫達の様子を見ることが少なくなり残念でしたが、お迎えの車の中で、「たのしかったあー」と言ってくれることが、何よりのプレゼントです。

園長先生、先生方ありがとうございます。

奏ちゃん、晟ちゃん、いつもじいちゃんと遊んでくれてありがとうね。



(ゆり組 下田奏太朗くん
ばら組 下田晟太朗くんのおじいちゃん)
安ヶ平 満さん



ようちえんってこんなところ



～保育参観日・音楽鑑賞会～



「ジャンジャンジャン。たのしいな!」

～SDGs さつまいも掘り～



「おおきい さつまいも ほれたよ!」

～お店屋さんごっこ～



「スイッチ かいてきてね!」



とらんぽりん

～ある日の保育日誌～



満3歳いちご組 11月14日(水)

ひと月に一度の避難訓練日。初めての子どもいたので、なるべく不安にならないように地震想定訓練があることと対処の仕方を伝えた。テーブルの下に身を隠すように指示されると静かにテーブルの下へ。屋外へ避難の際、上履きを脱いで遊んでいた子が少し遅れたものの、泣いたり、騒いだりする子はいなかったが、室内に戻り避難訓練について話をすると、ほっとしたのか泣き出した子がいた。ただ、いつ何があるかわからないので、避難訓練の大切さを伝えていきたい。



～勤労感謝の集い～
「いつも、きれいにありがとう♡」

年少組 11月10日(水)

ブロックで作ったものをA君に「かっこいいね」と褒められたB君。嬉しかったようで「Aくん、やさしいね」と声を掛けていた。A君は「Bくんによさしいっていわれた」と顔を赤らめ嬉しそうに報告してくれた。「A君もB君もとっても嬉しい気持ちになったね」と話すと二人ともニコニコしていた。その後も違う遊びの中で「Aくん、やさしいね」と言われ、「またやさしいっていわれた」と大喜びしているA君の姿が見られた。ほっこりした一日になった。

年中組 11月19日(金)

暖かかったので、砂場を開放した。早速じょうろで水を砂にかけ、固まる様子を見ていた。それからフライパンにびっしり砂を入れ、水の量を加減しながらかけてはゆっくり静かに叩いていた。「ほんもののチョコレートみたい、ちゃんとたいらにしたいよ」と見せにきたので、「上手だね。本物かと思ったよ」と言うと「みずをかけるというんなものができるから、またやりたいな」と言っていた。夏に砂遊びをした時と少し違うことを感じていたようだ。



～焼き芋会～
「やきいも おいしいね♡」

年長組 11月24日(水)

クリスマスツリー制作の際、ツリーに貼る模様を細かくしすぎて周りから大分遅れてしまった子たちがいた。切った紙を一枚ずつきれいに並べるなど細部にまでこだわって作っていたので時間がかかるのは当然。ただ、今後に向けて頑張りは認めながらも時間を考えて自分なりに工夫できるように改めて指導していかなければ、と思った。それぞれが工夫して作った星やブーツ、靴下などを貼り全員が完成。思いの詰まったツリーに満足気な子どもたちだった。

八戸工業大学50周年イヤーを迎えて 学長 坂本 禎智



新年明けましておめでとうございます。

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い社会情勢は激変、SDGsを始めとする様々な社会的課題への取組は新局面を迎えています。さらに最近は、脱炭素社会の実現に向けた動きが加速し、全世界が一丸となってその

ゴールに向かって行動しています。

これらの諸課題を解決に導くためには、社会・経済、科学技術・情報など幅広い分野の視点を持った知識と応用力が必要となり、大学等の高等教育機関にはこれを備えた人材の育成が求められています。特に産業界からは、AIやIoTなどの新しい技術に対応でき、それらを高度に応用できる幅広い分野の知識をもった人材が求められています。

これに應えるため、本学は今年4月に改組を行います。工学を分野横断的に学べるように、工学部5学科を1学科に統合し、工学部工学科（5コース制）とします。

また、感性デザイン学部は、学科名称を感性デザイン学科に変更します。この改組に伴い新しいカリキュラムを構成、工学部に幅広い工学分野の技術を知る分野横断型の科

目を設置し、工学部と感性デザイン学部の両学部に学部横断型の「人の感性を重視したモノづくりができる力」を養う科目、またITスキル強化のための「AI・データサイエンス・数理」関連の科目を設置します。新体制の教育を通じて、地方創生を担う人材、幅広い素養を持った有為な人材を育成していきます。

今年、本学は大学設置認可を受けてから50年となります。この節目の前年度にあたる令和3年度は、創立50周年記念プレ・イヤーとして、シンボルマークの制定を始め様々なイベントを実施してきました。特に「学生がつくる50周年」と銘打って、学生の主体的な活動を支援する「学生チャレンジプロジェクト」や、大学正門からメディアセンターまでの一帯を、教育や市民開放の場として整備する事業に取り組んでいます。

4月からは、創立からの50年を振り返り、これまでご支援いただいた多くの皆様に「感謝」を伝え、その先のビジョンを掲げ「進化・成長」を誓う機会と捉えて活動を本格化させ、10月には式典・祝賀会を実施予定です。

創立50周年を機に、更なる社会貢献を行う決意を新たにし、未来に向けて邁進していきたいと考えています。

今年もよろしくお願いいたします。

新成人に聞く

大きく変化した日常の中、未だ大きな試練に否応なく立ち向かっていかなければならない状況が続いています。その中で、無事に二十歳を迎えることができ、改めて今まで私のことを育ててくれた家族や支えてくださったたくさんの方々に深く感謝しています。



今後は、新成人として責任ある行動を心がけ、お世話になった方々に胸を張れる自分でいられるよう日々努力を惜まず、何事にも積極的にチャレンジしていき、笑顔で私らしく歩いて行けるような道を切り拓いていきたいと思っています。

坂本明日翔（生命環境科学科2年／八戸聖ウルスラ学院高）

成人式を迎えて、大人としての一步を踏み出せたことに喜びと少しの不安を感じています。大人になるということは、今まで以上に期待される場面や責任を求められることが増えると思います。自分の言動に責任を持てるよう日々努力し、立派な社会人として周りの期待に応えられるように精進していきます。



泉山 亮平（土木建築工学科2年／八戸工業高）

OB・OGメッセージ

感性デザイン学科 OG の上野黎香です。

就職した株式会社田名部組と母校である八戸工業大学が産学連携の「はちのへ『まち』プロジェクト」の基本協定を結びました。具体的な動きとしては中



心街の賑わいと発展に寄与するための工業大学のサテライトオフィスが当社が所有する番町ビル内に設置。また、八戸地域の現状を学んでいただくための寄付講座の開設をする予定です。このプロジェクトを通して、経済・産業ともに八戸を発展させていければと思います。



アイススケート部優勝！インカレ出場へ！

11月21日～23日に宮城県で行われた「令和3年度東北地区学生アイスホッケー選手権大会兼第94回日本学生氷上競技選手権大会東北地区予選」にてアイススケート部（アイスホッケー部門）が優勝、インカレ出場を決めた。東北地区予選の優勝は7年ぶり、インカレへは2年ぶり17度目の出場となる。

監督 本間 貴士



第49回工大祭、オンラインにて開催

延期となっていた第49回工大祭が11月6日、オンラインにて開催された。今年のテーマは「学園祭って本当に楽しい！CAN MAKE HIT」で、YouTubeを利用して配信された。

一般公開した第1部では学科とサークル紹介の動画配信、第2部では学内限定のe-sports大会とビンゴ大会が行われた。

学園祭実行委員長の三田知広さん（システム情報工学科2年／茨城・勝田高）は、新たな学園祭の形を作ることが出来たことを喜び、2022年秋、50周年を迎えての開催に「期待してほしい」と話した。



（左）三田さん（右）関口結実さん（システム情報工学科1年／八戸北高）

八戸市島守地区にて公開講座を開催

本学と島守地区が取り組む教育・研究活動「しまもりSDGs」の一環として、同地区を会場に公開講座が行われた。担当教員は、自身の専門分野を島守地区の現状や課題に絡めて紹介した。（開催は令和3年11月）

◆いまだですが、しまもりSDGsの紹介と、2月におこなった味噌玉の今

生命環境科学科教授 星野 保

◆農村電化と再生可能エネルギー

電気電子工学科講師 花田 一磨

◆飲み水の未来とSDGs

土木建築工学科准教授 鈴木 拓也

◆環境が変われば生物も変わる～生物多様性と生態系機能の理解に向けて～

生命環境科学科教授 田中 義幸

◆しまもりで畑を借りて晴耕雨読なSDGsの取り組みについて

土木建築工学科准教授 高瀬 慎介



硬式野球部二部リーグ優勝！

硬式野球部が2021年度北東北大学野球秋季二部リーグ戦において、優勝を果たした。渡辺凌晴投手（電気電子工学科1年／八戸工大一高）が4勝を挙げ最優秀選手賞、また荒川晟内野手（土木建築工学科1年／盛岡工高）、福士竜生外野手（電気電子工学科2年／五所川原工高）がベストナインに選出される活躍を見せた。来季の一部リーグ昇格に期待したい。

顧問 大室 康平



バレーボール部一部残留、来季に期待

バレーボール部は、「第58回東北バレーボール大学リーグ戦」において、東北一部リーグ5位という結果に終わり、インカレ出場の目標を果たすことができなかった。2021年度は新型コロナウイルス感染症対策による変則的な日程から、学生たちは体調管理や調整に苦労していた。来季は練習を重ね、是非とも念願のインカレ出場を果たしたい。

監督 黒滝 泰世



文化会、霜月展開催

11月8日～12日、中止となった「彩才祭」に替わり、学生ホールにて文化系サークルが日々の活動内容を展示紹介する「霜月展」が開催された。会期中、学生や教職員が訪れ、活動紹介のパネルやアート作品、鉄道ジオラマなどの展示品を眺めていた。



2023年冬季国体シンボルマーク・スローガン採用 在学生と卒業生のW採用

2023年1月～2月、八戸市と南部町で開催される冬季国体スケート・アイスホッケー競技会のスローガンとシンボルマークが決定。シンボルマークは藤縄大樹さん（感性デザイン学部2年）、スローガンはOGの太野瑞貴さん（感性デザイン学部卒）の本学にとってWの快挙となった。

◆スローガン採用

スローガン採用のお知らせを聞いたときは、まさか自分が選ばれるとは考えてもいませんでしたので、とても嬉しく思いました。

大学入学を機に岩手から八戸に移り住んで10年、八戸の冬は雪が少ない代わりに街の至る場所が結氷し、スケート競技が身近で環境が整っていることはとても大きな驚きでした。八戸が氷都と呼ばれる理由を、日々生活しながら実感しています。

2023年の国体では、選手の皆さんがこれまでの練習の成果を遺憾なく発揮し、八戸市が氷都としてさらに盛り上がっていくことを願っています。開催が今からとても待ち遠しいです。

太野 瑞貴（感性デザイン学部卒）

◆シンボルマーク採用

シンボルマーク作成に当たり、八戸での開催、未来へつなぐ国体、スケートリンク場を選手が滑っているシーンをイメージし、冬を感じさせる青を基調としたクールなデザインを心がけました。

この採用で、喜びと共に自分のデザインが認められことを嬉しく思います。

シンボルマークの制作に携わり、変更意図を汲んで修正案を制作するといった実践的なデザインプロセスを体感することができました。この経験を今後の活動に生かせるよう、日々精進を重ねたいと思います。

藤縄 大樹（感性デザイン学部2年／八戸工大二高）



藤縄 大樹さん

新型コロナウイルス医療支援第10弾

10月、八戸平和病院と共同でコロナ病棟開設に伴う空調検証を行った。検証に先立つ記者会見では金子賢治社会連携学術推進室長が、本学研究ブランディング事業「ARCH PROJECT」の地域医療貢献を説明。新型コロナウイルス感染対策においても、医療機関と連携し地域貢献していることを強調した。

機械工学科浅川拓克准教授は、今回は微粒子を可視化し、高精度なパーティクルカウンターで計測することにより、飛沫の広がり方や換気時間を検証することを説明。土木建築工学科小藤一樹准教授は、建築家の立場から病院の設計面に言及。空調検証に伴い、病棟全体の換気や排煙・避難計画についてもアドバイスしたいと話した。

記者会見終了後、実際に同病棟でウイルスに見立てたフォグを発生させ、換気の検証実験を行った。



シロイヌナズナをもちいた雪腐病評価系の開発 ～局地的に紙面トップを飾る～

この研究は、シロイヌナズナという雑草で雪腐病を評価したものである。雑草の病気がなぜ局地紙面トップニュースに？と思うだろう。この雑草は、遺伝子操作が容易なため、さまざまな遺伝子の働きを知るために利用されている。

遺伝子操作した雑草は、雪腐病にかかりやすく、あるいはかかりにくくなる。つまり雑草を通じて遺伝子の仕組みを知り、同様に病気になる作物へ応用する道具となるのだ。

写真の茶色い粒が雪腐病菌（融雪後の枯葉上に見えるもので芝生を枯らす）の菌核で、植物でいう球根のようなものだ。これで夏を越し、晩秋にはここからきのこが発生する。

このニュースの紙面では私だけが取り上げられているが、これは様々な機関との共同研究である。

生命環境科学科教授 星野 保



雪腐病菌

新役員決定

12月17日、学友会、体育会、文化会の新年度役員が坂本禎智学長を表敬訪問した。新役員の多くは現在1年生で、フレッシュな感性と行動力で体育祭・学園祭・彩才祭等の行事に取り組んで欲しいと、坂本学長から激励を受けた。



学友会委員長 三田 知広 システム情報工学科2年 茨城・勝田高(前列左から2人目)
体育会会長 泉山 亮平 土木建築工学科2年 八戸工高 (前列右端)
文化会会長 川口 左恭 機械工学科1年 八戸工大一高(後列右から2人目)

桜総業(株)×八戸工業大学 協働プロジェクト 青森工場見学・表彰式開催

桜総業(株)と感性デザイン学部による、小型空気清浄機のネーミング・リーフレットデザイン提案協働プロジェクトが行われ、ワークショップ、デザイン制作、リモート会議による発表会など、デザインの現場で重要なクライアントとのキャッチボールが体感できる授業となった。

12月9日、学生25名が同社の製品製造現場(青森工場)を見学、柳谷利通理事長、浅利能之研究開発代表顧問も同行した。見学後、優秀作品制作者8名に表彰状と副賞が手渡された。

感性デザイン学部教授 高屋喜久子・准教授 安部 信行



(前列左5人目から柳谷理事長、桜総業福土社長、浅利顧問)

地域貢献事業へ前進

～田名部組と基本協定締結～

本学は株式会社田名部組と地域貢献事業に関する基本協定を締結した。12月22日に行われた基本協定締結式では、坂本禎智学長と田名部智之代表取締役が協定書に署名した。

坂本学長は、開学50周年の節目にこのような協定を結ぶことを喜び、さらなる地域貢献に向けて活動していくことを強調した。

この連携に基づき、八戸市中心街に「番町サテライトオフィス（仮称）」の開設を予定している。『はちのへ「まち」プロジェクト』と題し、公開講座を実施したり、学生の制作物を展示するスペースなどを設ける計画である。感性デザイン学部助教宇野あずさと同学部の学生が内装デザインに携わっており、今年4月のオープンに向け準備を進めている。



新型コロナウイルスワクチン接種状況

9月17日・18日、10月15日・16日にSGプラザ（旧新八温泉）において、希望する700名あまりの学生、教職員とその家族が2回のワクチン接種を受けた。これは、八戸版新型コロナウイルスワクチン職域接種実行委員会が実施した職域接種の一環として行われたものである。

接種日には、企業事務局として本法人・大学の職員が受付や誘導などの運営を担当し、滞りなく終了した。

本学では今後とも感染拡大防止対策と学修機会の確保を両立するための環境整備に努めていく。



2月～4月の主な予定

2月	1日	編入学・転入学試験
	2日	一般選抜試験前期
	14日	総合型選抜試験第3クール
3月	15日	大学院入試第2次選抜
	4日	一般選抜試験後期
	9日	総合型選抜試験第4クール
	12日	春のオープンキャンパス
	18日	令和3年度学位記授与式
4月	2日	令和4年度入学式

※予定変更場合があります。大学HPで確認ください。

非接触型消毒機寄贈

11月25日、(株)下徳商店様より感染症から子どもたちを守りたいと、非接触型消毒噴霧機74台が本法人（理事長 柳谷利通・写真右）へ寄贈された。消毒機は学生・生徒・園児他を様々なウイルスから守るため各学校園に設置され、感染症対策に貢献したとして理事長より、(株)下徳商店代表取締役 下斗米一泰氏（写真左）に感謝状が贈られた。



オープンキャンパス開催予定

新型コロナウイルス感染防止対策を取りながらの開催のため、詳細については本学ホームページ、Twitter (@HIT_kouhou)、LINEでお知らせします。

開催予定日：2022年3月12日（土）



八戸工業大学ホームページ <https://www.hi-tech.ac.jp/>

第3駐車場整備終了

11月、アスファルト施工による第3駐車場の整備が終了した。水はけと冬期の除雪作業を考慮した作りとなっており、マイカー通学学生が利用しやすいよう校舎に隣接している。

本学は、八戸久慈自動車道八戸南ICと国道45号線に隣接しており、入学時から自家用車通学が許可されている。



2022年度入試日程

入試区分		願書受付期間（必着）	試験日
総合型選抜試験	第3クール	1月24日(月)～2月2日(火)	2月14日(月)
	第4クール	2月28日(月)～3月4日(金)	3月9日(火)
一般選抜試験	前期	1月4日(火)～1月25日(火)	2月2日(火)
	後期	2月14日(月)～2月24日(水)	3月4日(金)
大学入学共通テスト利用 選抜試験	前期	1月4日(火)～1月25日(火)	令和4年1月15日(土)・1月16日(日)の大学入学共通テスト
	中期	2月1日(火)～2月14日(月)	
	後期	2月28日(月)～3月14日(月)	

第63回 体育祭

10月26日、新型コロナウイルス感染症の影響で延期されていた第63回体育祭が新井田公園多目的広場で開催された。

「努来勝(どっこいしょ)」というスローガンのもと、感染症対策を講じ、各競技種目に工夫を凝らした。

今年度初の全校行事ということもあり、3年生が意気揚々とリードし、全校一丸となって行われた。生徒たちの一生懸命取り組む姿勢に、御来賓や保護者の皆様の歓喜や笑いが満ち溢れた。

優勝は黄軍、2位青軍、3位赤軍、4位白軍。女子学年対抗は優勝1年生、2位2年生、3位3年生となった。

生徒たちの笑顔が光る素晴らしい体育祭となった。

スローガン表彰：大村 翔平君(情報コース2年/湊中)



第52回 工大一祭

10月29日、第52回工大一祭が行われた。昨年度同様に新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、生徒と教員のみで平日開催となった。

「Bonds of Kodai1 ～皆で咲かす笑顔の花～」というスローガンのもと、1年生は縁日、2年生はコース展示、3年生はキッチンカー販売所の誘導と感染予防など学年ごとに分担をして臨んだ。

開会式後に、3年生女子による創作ダンスの発表が行われ、その後吹奏楽部の第50回定期演奏会も実施され、会場は大きな拍手で包まれた。恒例の大演芸大会のゲストとしてモノマネ芸人の「ノブとカカズ」のおふたりにお越しいただき、会場を盛り上げていただいた。

生徒ひとり一人が自分たちの役割に取り組み、盛況のうちに終了した。この体験を活かし、今後の高校生活が充実するものになることを期待したい。

スローガン表彰：高橋 海斗君(スポーツ進学コース2年/市川中)

ポスター表彰：高村 悠君(情報コース2年/倉石中)



令和3年度進路中間報告(進学先一覧)

令和4年1月14日現在

<国公立大学>

岩手県立大学
室蘭工業大学

<私立大学>

八戸工業大学 47名
関西学院大学
八戸学院大学 3名
東京国際大学
東北福祉大学
東海大学
日本大学 4名
中央学院大学 2名

仙台大学
足利大学
関東学院大学
札幌学院大学
札幌大学
専修大学 2名
つくば国際大学
東北学院大学 4名
東洋大学
日本体育大学
函館大学
北海道科学大学
立教大学

神奈川大学
大東文化大学 2名
富士大学 2名
実践女子大学
尚絅学院大学

<私立短期大学>

弘前医療福祉大学短期大学部
青森明の星短期大学
八戸学院大学短期大学部 2名
埼玉女子短期大学
仙台赤門短期大学

<看護医療系専門学校>

八戸保健医療専門学校 5名
東北メディカル学院 2名
東京医療専門学校
国際医療福祉専門学校一関校

<専修・各種学校>

横浜ビューティ&ブライダル専門学校 2名
吉田学園動物看護専門学校
仙台リポート&スポーツ専門学校
八戸理容美容専門学校 3名
盛岡ヘアメイク専門学校
岩手公務員・医療・ビジネス専門学校
仙台医健・スポーツ専門学校
仙台ビューティーアート専門学校

盛岡公務員法律専門学校
仙台デザイン&テクノロジー専門学校
八戸工科学院 2名
弘前高等技術専門学校
アレック情報ビジネス学院 4名
デジタルアーツ仙台 2名
東京医療秘書専門学校
東京法律公務員専門学校仙台校
東北電子専門学校 3名
日本菓子専門学校
大原スポーツ公務員専門学校仙台校
仙台大原簿記公務員専門学校

黒田君 西武ライオンズ ドラフト5位

10月11日、2021年プロ野球ドラフト会議が行われ、本校硬式野球部からプロ志望届を提出していた黒田将矢君（スポーツ進学コース3年／大平中）が、埼玉西武ライオンズから5位指名を受けた。



黒田君は、2年生の秋季大会から本校OBで現在千葉ロッテマリーンズに所属する種子篤暉投手が高校時代につけたエースナンバーを背負い、今年の春季大会では準優勝、甲子園予選青森大会では激闘を制しベスト4進出に導いた。記者会見の質問で、黒田君は「プロの世界で活躍し、お世話になった方々への恩返しをした。」とこたえた。



今後とも黒田君への御声援、よろしく願っています。

リモートを活用した高大連携事業

9月30日～11月18日の毎週木曜日、課題研究の授業時間を利用して、電気コース3年22名を対象に、八戸工業大学電気電子工学科石山研究室、関研究室、信山研究室、佐々木研究室から協力いただき、研究室の体験型講義を実施した。



今年で6回目となった高大連携事業は、初めてリモートで行った。講義は、最新技術の紹介や変化し続ける産業に対する興味・関心の幅を広げるための工夫が施された内容であった。

生徒たちは「難しい内容だったが、教授・学生スタッフの皆さんが優しく分かりやすく教えてくれた」、「大学での勉強に興味がわいてきた」と感想を述べた。

Gプロジェクト

10月20日、バルセロナ五輪やアトランタ五輪の競泳日本代表の千葉すず氏を招き「諦めない心・挑戦する心」と題し、普通科生徒対象の第25回普通科人間力養成講座（Gプロジェクト25）が行われた。

千葉氏は「目標や夢があったから苦しいことがあっても乗り越えられた」と目標設定の重要性や、「やってみなきゃわからへん、やってみてから決めたらええ」と挑戦することの大切さを語った。

代表生徒懇談会では生徒の質問に「緊張は悪い事ではない。笑うことで全身の筋肉がリラックス出来るから、よく笑って」とこたえ、様々なアドバイスをくれた。生徒は「本当に為になったし感動した」と感想を述べた。



Gキャンプ11

11月20日・21日に、1泊2日の日程で、青森原燃テクノロジーセンターを会場に第11回普通科宿泊勉強会（Gキャンプ11）を実施した。

参加した特別進学コース2年生15名は皆必死に机に向かい、本校普通科のグラデュエーション・ポリシーである「自学力」と「考動力」を身につけるべく取り組んでいた。

参加した硬式野球部の生徒は、「最初は自分には絶対無理と思っていたけれど、仲間と一緒にしっかり勉強に向き合えた。かなり自信が付いた」と話した。



湊地区「坂道名の看板」贈呈会

11月22日、校長室にて情報コースと機械コースが協力して作成した湊地区「坂道名の看板」贈呈会が行われた。

贈呈会では、作成者を代表して濱谷莉穂さん（情報コース2年／鯨中）から湊地区連合町内会の山下福一会長と石田清氏へ看板が手渡された。会長から24ある坂のひとつの「避病院の坂」の由来の説明があり、司会を務めた宗石陽菜さん（情報コース3年／八戸一中）は「名前ひとつにもそれぞれ歴史があり、地域の歴史を学ぶことができた」と感想を述べた。

なお、坂の名前や由来は本校ホームページで紹介する。



令和3年度進路中間報告(就職先一覧) 令和4年1月14日現在

<県内企業(管内)>

青森ヤクルト販売(株)
(株)オートガード八戸
(株)大山建工
小幡建設工業(株) 2名
(株)幸楽苑八戸沼館
美容室銀のはさみ
建築リフォーム専門店ACE
高周波鋳造(株)
(福)みろく会
特別養護老人ホーム光葉園
スターゼンミートプロセッサ(株)
青森工場三戸ビーフセンター
(株)セイシンハイテック
(株)タナカホーム
(医)康和会在宅ケアセンター
ちょうじゃの森

月館塗装(株)
東京鉄鋼(株)八戸工場
東復建設(株)
トヨタカラー八戸(株)
(株)根城グリーン建設
ネットヨタみちのく(株)
八戸製錬(株)八戸製錬所
(有)八戸地下開発工業
八戸中央青果(株)
八戸東洋(株)
八戸港湾運送(株)
(有)福田組
プライフーズ(株)
北辰工業(株)
(株)マルタケ
マルヨ水産(株)
三浦建設工業(株)

山沢左官工業所
(有)トムセカンド
(有)八戸地下開発工業
(株)ユニバース
(株)よこまち
ローソン八戸白銀店

<県内企業(管外)>

(株)ジェイテック
日本原燃分析(株)
(株)マエダ
南漁業部(株)

<県外企業>

アイウチ工業(株)
(株)石井組 2名
(株)岩瀬運輸機工

(株)永進工業
大阪デリバリー(株)
風張工務店
鎌田工業(株)
川口土木建築工業(株)
関東シモハナ物流(株)厚木営業所
ケイアイスター不動産(株) 2名
(株)坂上建設
(株)叙々苑
西武ライオンズ
(株)相双リテック
(株)タイラ型枠
東亜道路工業(株)
東京電力ホールディングス(株)
(株)トッパンコミュニケーションズ
日産自動車(株)
日鉄テックスエンジ(株)津津支店 2名
日東グラステックス(株)
日本製鉄(株)東日本製鉄所

日野自動車(株)
ヘライ建設(株)
朋和産業(株)習志野工場
ボラスハウジング千葉(株)
(株)マルノウチディストリ
(株)三浦組
山崎建設(株)東北支店
(株)ユアテック
力丸建設(株)
六花亭製菓(株)
(株)テクニカ総合設備

<公務員>

青森県警
中泊町役場
神奈川県警察
航空自衛隊 2名
陸上自衛隊 7名
海上自衛隊 1名

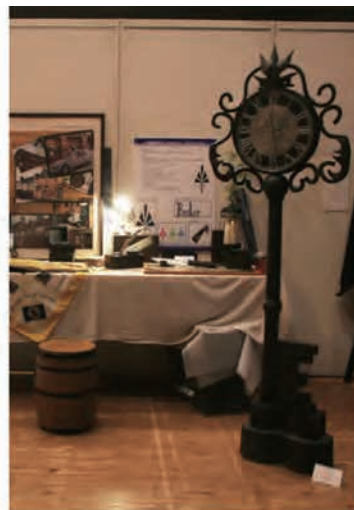
美術コース展誌上卒業制作展



1



2



3

- 1 田村 瑠菜
「東の怪」/CG
- 2 上山 凌侍
「タイムスリップ」/CG
- 3 田向 史龍
「C. lock」/立体
- 4 名久井遥海
「夢中」/アクセサリー
- 5 坂井 奈緒
「不老不死」/映像
- 6 山崎 柚羽
「PV」/映像
- 7 酒井 すず
「シーラカンス」/油彩
- 8 高田 葵
「内面」/油彩
- 9 泉山 花音
「UNDER WATER DOG」/アクリル



4



5



6



7



8



9

令和3年度 進路中間報告

令和3年12月27日現在

<国公立大学・短大>

名寄市立大学
釧路公立大学 3名
北見工業大学
青森公立大学
青森県立保健大学 2名
岩手大学
秋田公立美術大学 2名
福島大学
筑波大学
群馬県立女子大学
山形県立米沢女子短期大学 2名
大月市立大月短期大学

<私立大学>

札幌学院大学
北海道文教大学
弘前医療福祉大学
八戸学院大学 12名
青森中央学院大学 2名
八戸工業大学 10名
盛岡大学
岩手医科大学
東北文化学園大学 2名
宮城学院女子大学 2名
東北福祉大学
東北学院大学 2名
日本赤十字秋田看護大学 2名
東北芸術工科大学
国際医療福祉大学
獨協大学
駿河台大学
神田外語大学
千葉工業大学
法政大学
武蔵野美術大学
東京造形大学
大正大学

専修大学

駒澤大学
東洋大学
東京富士大学
東京農業大学
東京造形大学
多摩美術大学
玉川大学 2名
実践女子大学
北里大学
大妻女子大学
亜細亜大学 3名
桐蔭横浜大学
松蔭大学
関東学院大学
ネットの大学managara
同志社大学

<医療系専門学校>

八戸保健医療専門学校 2名
八戸看護専門学校 2名
東北メディカル学院 7名
国際医療福祉専門学校一関校
横浜労災看護専門学校
亀田医療技術専門学校

<専門学校・各種学校>

八戸理容美容専門学校 2名
八戸工科学院
専門学校アレック情報ビジネス学院 2名
青森中央文化専門学校
北日本ハイテクニカルクッキングカレッジ
東北愛犬専門学校
仙台ビューティーアート専門学校
東北文化学園専門学校
仙台デザイン&テクノロジー専門学校
仙台総合ペット専門学校
大原簿記情報ビジネス医療
福祉専門学校山形校

プロダクション人力舎

東京服飾専門学校
東京バイオテクノロジー専門学校
辻調理師専門学校
JAM日本アニメ・マンガ専門学校

<民間就職>

有限会社柏崎青果
社会福祉法人友の会
公益財団法人シルバーリハビリテーション
協会介護老人保健施設はくじゅ
株式会社オーエス・エス
青森日産自動車株式会社 2名
川上塗装工業株式会社
アイリスオーヤマ株式会社
関越ソフトウェア株式会社
株式会社マリークワントコスメチックス

<公務員>

陸上自衛隊 2名
海上自衛隊 4名



外務省高校講座

12月15日、外務省職員の石原丈嗣氏を講師に迎え、外務省高校講座が行われた。外務省は毎年、全国の高等学校に講師を派遣し国際理解や外交官の職務についての講座を実施しており、今年は本校が選出された。

講座は2部制になっており、第1部で1・2年生が石原氏から話を聞き、第2部で希望した約30名の生徒が参加して座談会が行われた。

参加した生徒は、「海外で仕事をする人の話を直接聞く機会はなかなかないので、ためになることが多かった。資源が少ない日本に住んでいる私たちは、勉強して世界で活躍するしかない、という言葉が印象に残った」と述べた。



子どもたちに元気を届けたい!

2学年探究的な学習・子ども食堂

2学年の総合的な探究の時間に、地域の活性化、貧困家庭や子育て家庭の支援、フードロスの解消を目的として、子ども食堂の実現に向けて活動しているグループがある。

残念ながらコロナウイルス感染拡大の影響で子ども食堂の開催は実現されていないものの、現在は地域の民間企業や団体、行政機関などと相談・連携しながらフードパントリー活動の準備を行っている。この活動の一環として、生徒たちはちょうじゃこども食堂主催のハロウィンパーティーやクリスマス会でゲームを企画・運営も行った。参加した生徒は「今後は実際にフードパントリー活動を行ったり、子どもの貧困の解決に向けた取り組みについての探究活動も行っていきたい」と述べた。



2学年企業見学

12月1日、2学年の生徒150名はクラスごとに分かれて八戸市内の事業所8カ所を訪問、工場や店舗の見学、作業体験などを通じて地域経済を支える各企業への理解を深めた。

旭光通信システム(株)を見学した石岡大知さん(カレッジコース/大館中)は「高速道路で何気なく見るものが、八戸で作られていたことを知り驚いた。八戸が物流や、物の生産に向けた土地だと知り、地元就職を視野に入れようと思った」と述べた。



白神山地トレッキングツアー

10月24日、白神山地トレッキングツアーが開催され、生徒26名が参加した。このツアーは環境教育の一環として毎年行っているもの。生徒は世界遺産に登録されている白神山地を訪れ、ブナを中心とした植生観察を行った。また、隣接されている津軽ダムも訪れ、水陸両用バスに乗り、自然と人間の共存のあり方を考えた。参加した生徒は「青森の魅力の新しい一面が発見できた。今後は、自然を壊さずに観光客を多く呼び込める方法を学んでみたい」と述べた。



絵本読み聞かせワークショップ

11月8日、青森大学社会学部教授 秋田敏博氏を講師に招き、生徒23名が参加して絵本の読み聞かせワークショップが行われた。

生徒は、幼少期における絵本の読み聞かせの効用について知り、演習をとおして絵本の楽しさを伝える方法を考えた。参加した古川愛さん(カレッジコース2年/市川中)は「今まで絵本の読み聞かせは、本に触れてもらうことを目的としていたと思っていたが、それだけでなく、親子の絆を深めるための役割もあるということを知った。読み聞かせの方法も詳しく教わったので、今後実際に幼稚園などで行ってみたい」と述べた。



はしかみ いいとこ広め隊

本校生徒が「はしかみいいとこ広め隊」として活動を行っている。階上町教育委員会主催のこの活動は、階上町の魅力を発信できる地域の人材を育成することを目的としており、生徒たちはこれまでに階上町の海岸地域や施設でのフィールドワークを通して町の魅力を知り、町の魚アブラメ(アイナメ)をはじめとする海産物のPR方法を考えてきた。

参加している生徒は「階上町のゆるキャラ(写真:あぶらめくん)を使ったゲームの開発をして、町を多くの人にPRしていきたい」と述べた。



マイクロプラスチック分析結果報告会

12月10日、八戸工科大学院生宮里匠氏を講師に迎え、採取マイクロプラスチックの分析結果報告会が行われた。科学愛好会の生徒と総合的な探究の時間にマイクロプラスチックをテーマに活動を行っている2年生が参加。宮里氏が、五戸川河口付近で本校生徒が採取したマイクロプラスチックを分析し、その結果を報告した。今後生徒は、1月29日に宮城教育大学で行われる「児童生徒の探究型学習・課題研究発表会」で報告を行う予定。



過去と現在をつなぐ旅

11月4日～6日、3年生が「歴史・文化・産業・自然・SDGs」をテーマに、修学旅行に秋田県と岩手県を訪れた。

1日目は尾去沢鉱山の坑道内をガイドさんの話を聞きながら歩いて回り、その後、砂金取りを体験した。坑道内の温度は通年を通して12～13℃、鉱山を掘りすすめていくことの大変さを実感した。

2日目は入道崎、男鹿水族館GAO、なまはげ館、真山伝承館、寒風山、角館を訪れた。どの見学地も充実した内容であったが、特に、目の前で披露されたなまはげ習俗の



迫力には、圧倒された。宿泊先の夕食のバイキングは圧巻で、何度もおかわりをする生徒ばかりであった。

3日目は中尊寺金色堂と、えさし藤原の郷を訪れた。この時期は紅葉が見頃で生徒達は驚きの声をあげ、その様子を撮影している姿が多く見られた。ある生徒は「見学場所はどこも興味深く、秋田や岩手が好きになった。歴史の知識も深まった。なまはげ習俗を見て、心の面でも強くなれた」と感想を述べた。このコロナ禍で修学旅行を実施できたことは、生徒にとって大きな経験となったようだ。



実体験から南極を学ぶ

11月10日、元南極地域観測隊の一員で、八戸工業大学大学院准教授の鮎川恵理先生をお招きし、南極に関するサイエンス特別講座を実施した。

前半は、南極観測に参加したときのリアルな体験談や、南極に生息する植物、南極と北極の違いなどが紹介された。生徒は興味津々の様子でメモをとりながら聞いていた。

後半は、どんな仕事も文系と理系の人が協力して行っていること、好きなことを見つけ継続できるよう諦めない心が大切だという進路選択の一助となるアドバイスをいただいた。

生徒は、「南極の植物の話しと、進路の話しが興味深かったです。仕事には文系と理系が深く関わっていることを知り、とても勉強になりました」と感想を述べた。



青森に関わる科学技術を学ぶ

10月27日、第2回校外学習が実施され、青森県に関わる科学や科学技術の歴史を学ぶ目的で、六ヶ所原燃PRセンターと青森県立三沢航空科学館を訪れた。

六ヶ所原燃PRセンターでは、施設を見学、放射線測定器を使って身の回りにあるものの放射線量を測定し、様々な場所で放射線が使われていることを学んだ。

午後からは三沢航空科学館を訪れ、ミス・ビードル号や青森県に関わる航空の歴史についての知識を深め、体感型展示により空を飛ぶ仕組みや航空にかかわる技術を楽しみながら学んだ。宇宙ゾーンでは、宇宙探査や地球観測の展示を見学、宇宙がより身近になっていることを感じた。生徒達は、様々な分野における科学技術が着実に進歩していることを実感した。



さくら幼稚園50周年

10月23日、さくら幼稚園50周年記念イベントが八戸工業大学体育館を会場に行われた。園児は、初めての場所にいささか緊張気味ではあったが、尾崎直子父母と教師の会会長挨拶が終わり園歌を歌い終わる頃には、いつもの元気な笑顔に戻っていた。

後半は、親子で体操やふれあい遊びをし、園児全員で手話ソング「にじ」を披露し(表紙写真)、年長組が「ビリーブ」を歌った。最後は、鬼滅の刃のキャラクターに扮した八戸工業大学生が登場、園児にアニマルアートバルーン等のプレゼントがあった。

コロナ禍での開催は、父母にも子ども達にも思い出に残るイベントになったことだろう。

理事会・評議員会

◇10月29日 理事会

- ・「八戸工業大学学則」変更に関する件
- ・「八戸工業大学特待生・奨学生規程」改正に関する件
- ・八戸工業大学学務システム更新に関する件
- ・学校法人八戸工業大学資産運用に関する件

◇12月24日 理事会

- ・「八戸工業大学学費納入規程」改正について
- ・「八戸工業大学特待生・奨学生規程」改正について
- ・「学校法人八戸工業大学電子取引関係情報」の訂正及び削除の防止に関する事務処理要綱」制定について
- ・資産運用について